

「自立支援、介護予防又は重度化防止及び介護給付の適正化に関する取組と目標」の自己評価

団体名	三好市
-----	-----

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2023 実績	年度	2024	2025	2026	2024年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
いきいき百歳体操を実施する通いの場活動を展開する。	住民主体の介護予防教室を推進することで、地域活動を広げながらフレイル予防を行う。		目標	67団体	68団体	69団体	地域の住民が主体となって「通いの場」で、いきいき百歳体操を継続して取り組んでいただいた。また、年1回理学療法士及び保健師等が介入し、フレイルチェックや体成分分析装置による評価を実施し、介護予防や健康づくりに対する意欲向上を行った。	○	通いの場による介護予防活動は継続して行っていた。体成分分析装置によるデータを蓄積し、経年比較検証も行い、効果的な指導を行えるようにする。 一方で、団体数がこれ以上増えてしまうと、マンパワー不足により年1回の介入も難しくなる可能性がある。
		65団体	実績	69団体					
認知症サポーター数	地域や職域において認知症サポーターを養成し、サポーターにより、地域の見守りを強化することで、認知症のみならず、高齢者とその家族が抱える問題等に対し、適切な窓口につなぐ等、気づき役・つなぎ役を担えるよう図る。		目標	3,600人	3,750人	3,900人	中学生、高校生、市民・市職員に対して、認知症サポーター養成講座を実施。 認知症の正しい知識や接し方を学んでもらい、やさしく手助けできる啓発を行った。	○	引き続き、認知症サポーター養成講座を実施し、地域で認知症とその家族の方を支える活動に取り組んでもらえる人材を育成していく。 また、必要に応じて認知症サポーターステップアップ講座を実施する。
		3,448人 (累計)	実績	3,643人					
オレンジ（認知症）カフェ等を開催する。	認知症の人やその家族が地域の人や専門家と気軽に出会える場がない。相互に情報を共有しお互いを理解し合う「認知症カフェ」等の設置を推進していく。		目標	18回	18回	18回	オレンジカフェの拠点と位置付けている「辻のいろり」でオレンジカフェを毎月実施(※1月は積雪のため中止) 山城地区でも奇数月にオレンジカフェ(いきいきサロン山城)を実施。認知症やその家族、地域の方が集まって、交流、情報交換などを行った。	○	引き続き「辻のいろり」をオレンジカフェの拠点として、毎月実施。いきいきサロン山城でも偶数月に実施。 「辻のいろり」を拠点施設としているため同じ場所での実施のみとなったため、別の地区での実施も検討し、すそ野を広げていく。
		18回	実績	17回					
認知症の方に対する早期診断・早期対応のための体制づくりを実施する。	住み慣れた地域で生活を続けるためには、認知症の高齢者等への専門職の早期の関与等が重要と考えられる。早期診断・早期対応のための体制づくりを構築していく。		目標	1回	1回	1回	認知症関連の相談は急増、複雑化しており、その都度、認知症初期集中支援チームの専門職が中心となり対応した。これらの実際にかかわった事案を医療、介護、関係機関、地域住民の方に提示し、今後の対応などについて検討した。	○	認知症関連で関与する方は年々増加し、かつ、複雑・困難事例化している。医療や介護サービスになかなか繋がらないケースも多々あるが、かかわるすべての方と連携し、認知症の方やその家族の孤立を防ぎ支援する体制を構築していく。
		1回	実績	1					
生活支援等サービスを提供するボランティアとなるための研修等を実施する。	今後は地域の介護の担い手不足が深刻化してくる。地域の生活支援ニーズと地域の元気な高齢者の活動をマッチングさせる取組を推進していく。		目標	6回	6回	6回	昨年度は合同開催の1回にとどまったが、2023年度は3地区で生活支援サポーター養成講座を実施。通所型サービスBの担い手の人材育成を行った。	○	地域活動を主とする生活支援サポーター養成講座を継続して開催していく。ただ、第2層協議体ごとの6地区での開催を実施を予定はしているが、継続的に養成講座を行ってきたため、新たな担い手の掘り起こしが難しくなり、合同開催となっている。
		1回	実績	3回					

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2023 実績	年度	2024	2025	2026	2024年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
住民主体の自主活動として行うサービスBを実施する。	多様な日常生活上の困りごと等に対応するために、地域全体で共通の意識を持ち、地域にあった新たなサービスを創出できるように支援していく。		目標	11箇所	12箇所	13箇所	通所型サービスBの実施団体が新たに3団体増加。 生活支援サポーターにより百歳体操だけでなく各種レクリエーションに取り組んでいただき、地域で介護予防に取り組んでいただいた。	○	各地域でサービスB実施による介護予防活動が広がってきている。一方で、団体ごとにサービス内容や質に差が見られるが、地域の特色を残しながら、サービスの質の向上を目指していく。
		10箇所	実績	13箇所					
地域ケア会議を開催する。	他職種で検討することにより有効な解決手段等を導き、自立支援に資するケアマネジメントの支援を行うことで重度化防止や自立支援につなげていく。		目標	10回 (地域ケア会議2回、個別地域ケア会議7回、自立支援型ケア会議1回)	10回 (地域ケア会議2回、個別地域ケア会議7回、自立支援型ケア会議1回)	10回 (地域ケア会議2回、個別地域ケア会議7回、自立支援型ケア会議1回)	地域ケア会議では三好市権利擁護センターの取り組み、介護予防と地域づくり、令和6年度能登半島被災地支援を通じた地域包括ケアシステムについて協議。 個別ケア会議では、多職種が連携して支援を実施。 自立支援会議では、介護以外の専門職から意見をいただき、今後のケアマネジメントの提案をいただいた。	○	事例(個別地域ケア会議)の共有と学びを通して充実した会議を開催していく。地域ケア会議で、すべての高齢者の方を含む住民が、孤立することなく地域で自分らしい生活続けるため2040年に向けた新たな地域包括ケアシステムの仕組みづくりを構築していく必要がある。
		10回(地域ケア会議2回、自立支援型ケア会議1回、個別地域ケア会議7回)	実績	10回 (地域ケア会議2回、個別地域ケア会議7回、自立支援型ケア会議1回)					
自主グループ活動を行っている団体等に対して介護予防についての支援を実施する。(地域介護予防教室、地域いきいき事業等)	自主活動を行っている団体等に介護予防について啓発等を行うことで、介護予防に対する意識を高めて、介護予防につなげていく。		目標	24回	24回	24回	各種団体(地域団体、身体障害者会、地区住協等)に介護予防(フレイル予防、体操等)だけでなく、人生会議(ACP)、権利擁護(成年後見制度)などの各種講座を実施。 地域いきいき事業でも各種介護予防(体操、栄養指導及び料理)やレクリエーションを実施。	○	各種団体からの希望に応じた内容の介護予防に関する支援を行っていく。
		30回	実績	36回					

※ 行数が不足する場合は、適宜追加してください。